

### チュニジアのシンポジウムに参加

2015 年 3 月 17-18 日にかけてチュニジアで開催された水分野の産学連携シンポジウムに参加した。このシンポジウムは、JICA の円借款事業で整備したボルジュ・セドリア・テクノパークでの産学連携促進支援事業の一環として、水分野の課題と研究の成果を結びつけることを目的として開催された。二日間のシンポジウムでは農業大臣や日本大使館参事官、JICA チュニジア事務所長らの挨拶の後、水分野を「水資源」「上水」「下水」「灌漑」と4つのテーマに分け、それぞれのテーマでチュニジア側による研究成果や活動報告と、日本人による発表が行われた。また、各テーマの発表の後には、参加者による活発な意見交換が行われた。

筆者は、親交のある大学教員の紹介で「灌漑」について講演するためにチュニジアへ行くことになった。チュニジアで仕事をした経験は無く、話を頂いた時には一瞬躊躇したが、シリアの経験を紹介してほしいとのことだったので引き受けることにした。国際耕種が 2005 年から 2012 年までシリアで係った「節水灌漑農業普及

計画プロジェクト(DEITEX)」やプロジェクトで開発した普及ツール(AAINews 第 79~84 号参照)、当時のシリアの農業事情について紹介した。チュニジアとシリアは共に水資源の 80~90%を灌漑に利用しており農業分野での節水は非常に重要な課題である。発表の後には出席者から幾つかシリアに関する質問を受け、彼らの近隣国への関心の高さを感じた。

今回、シンポジウムの講演資料を準備するために、久しぶりに当時の資料を引っ張り出し、シリアにいるカウンターパート達と連絡を取った。「DEITEX の話をチュニジアでする」、と言うとみんな非常に喜んでくれ、当時と変わらぬ付き合いに嬉しかった。

3 泊のチュニジア滞在中、チュニス市内の博物館で立てこもり事件が起きた。最近あちらこちらで人が亡くなり、悲惨な事件に鈍感になってしまいが、一日も早くアラブ地域に平和が訪れることを願っている。

(2015 年 4 月中山)



シンポジウム会場



「灌漑」をテーマに講演

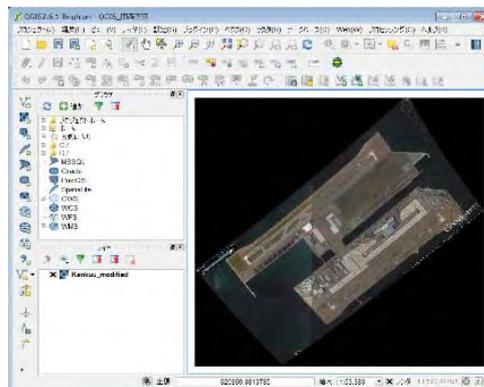


出席者からの質問に返答

### QGIS 勉強会を開始しました

GIS 業務はこれまで専門的技術として理解されてきたが、その日常的活用の要求度は高まっていることを現場で感じとることができる。国際耕種では、AAI ニュースの初期に「誰でも出来るリモートセンシング」を紹介したが、3月にフリーソフトの普及版であるQGISを使ってGISオペレーションの1回目勉強会を開催した。

講師のAAI社員も操作法に精通しているわけではないが、勉強会では参加者が知恵を出し合いながら相互に熟度を高めていくことを基本としている。参加はオープンである。AAI以外の2社からもスカイプ参加している。今後も、月一回程度の頻度で行っていきたい。



(2015 年 4 月財津)